

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立松梅中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月15日(火)、17日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

| 生徒に対する調査 | 学校に対する調査 |
|---|--|
| 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など |

(2) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

| 佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目 | 本校 % | 全国平均 % |
|---|--------|--------|
| 学校に行くのは楽しいと思う。 | 100.0% | 86.1% |
| 将来の夢や目標を持っている。 | 40.0% | 67.5% |
| 自分には、よいところがあると思う | 80.0% | 86.2% |
| 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、 新たな考え方に気付いたりすることができている | 100.0% | 84.7% |

「将来の夢や目標を持っている」の項目は、全国平均より 20%以上低く、全国平均を大きく下回る結果が出ています。また、「自分にはよいところがあると思う」の項目は6%全国平均を下回る結果が出ています。

| 家庭学習の様子に関する調査の項目 | 本校% | 全国平均 % |
|--|-------|--------|
| 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの 時間勉強していますか。「3時間以上」 | 0.0% | 9.9% |
| 「2時間以上、3時間より少ない」 | 0.0% | 20.9% |
| 「1時間以上、2時間より少ない」 | 80.0% | 30.8% |
| 「30分以上、1時間より少ない」 | 20.0% | 19.1% |
| 「30分より少ない」 | 0.0% | 11.3% |
| 「全くしない」 | 0.0% | 7.7% |

学習時間について、2時間以上の項目においては誰もいませんでした。30分から2時間未満の生徒が全体を占めています。30分未満の生徒や全く家庭学習をしていないという生徒はいませんでした。

(2)改善に向けての取り組み

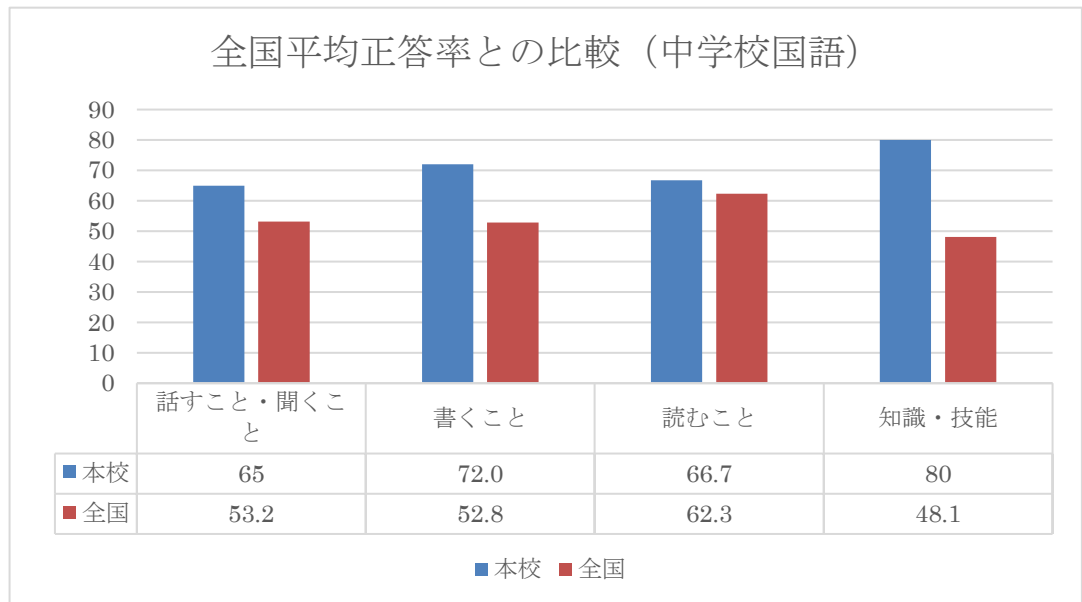
【学校では】

- 家庭学習など授業以外の学習時間を確保することは、学習内容の定着のためにも大切です。定期テスト等の前は、学習計画表を作成し、計画的に学習に取り組むようにします。また、家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。
- 学級活動やキャリア教育の時間に、学校生活や将来に対して前向きな姿勢を育み、学習の必要性を伝え、テスト前にはガイダンスを丁寧に行うなど、家庭学習に前向きに取り組めるようにします。
- 個に応じた出番・役割を設定し、生徒の頑張りを成果を承認しながら、自己肯定感や自己有用感を高めていきます。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習習慣の確立は、極めて大切なことです。規則正しい生活は、今できていることを今後も継続してほしいと思います。そして、家庭学習の時間を確保していただきたいと思います。自分で決めさせて、毎日の学習が習慣となるように励ましてください。少しでも学習の成果が出たときを逃さず、褒めることでさらに意識が高まります。
- 会話の中で、「将来何になりたいか」「どのような職業に興味があるのか」など、お子様の願いや考えをじっくり聞いたり話し合ったりする機会を増やしていただけたらと思います。

2 国 語



(1) 結 果

どの領域も、全国平均正答率よりも高い正答率でした。特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、10 ポイント以上上回っていました。また、無解答は、作文の問題で一部見られました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「書くこと」が全国平均正答率を 19.2 ポイント上回りました。これは、単元の終末に「書くこと」を含む表現活動を意図的に仕組んだり、苦手意識を払拭するために手立てをとったりしたことの結果が表れていると考えられます。また、「話すこと・聞くこと」も全国正答率を 11.8 ポイント上回りました。これは、ワークシートや ICT を活用して個に応じた対応を行ったり、話し合いや学び合いを行ったりしたことが、より深い学びにつながったものと考えられます。

課題は、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことの正答率を上げることです。正答率 20.0%と、全国平均正答率を 11.0%下回り、苦手としている生徒が多いことがわかります。言葉について理解を深めることは、「知識・技能」を高めるだけでなく、「思考力・判断力・表現力」をより充実させたものにすることができます。単元全体を通して、それらを連動して高めていけるような授業へと改善していくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

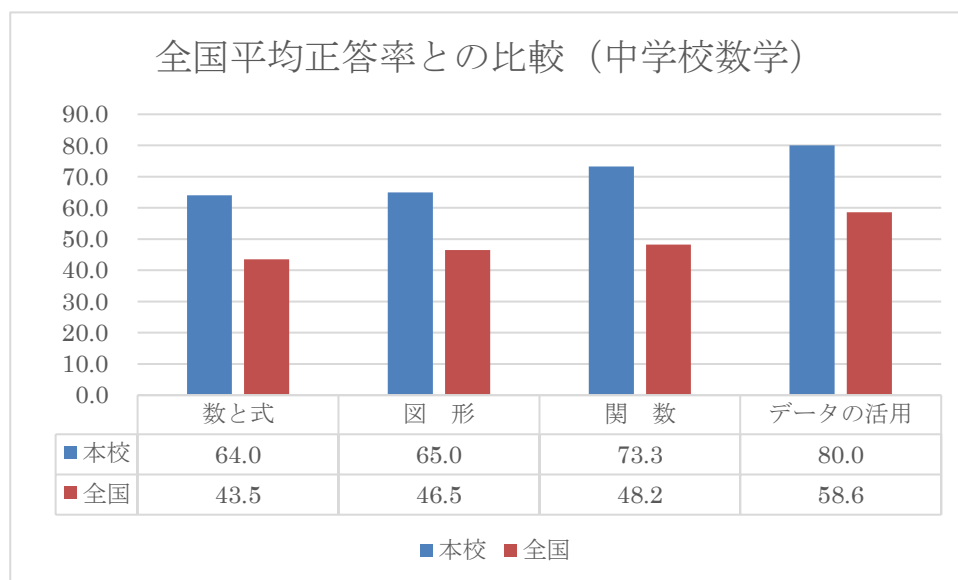
【学校では】

- 子どもが主体的に取り組むことができるように、単元の見通しがもてるような振り返りシートを工夫し、単元活動のゴールがわかるようにします。
- 漢字テスト、語彙テスト、文法等の小テスト等、自分の知識を確認できる機会を毎時間設定します。スキルタイムでも知識・技能に特化した課題に取り組ませ、定着を図ります。
- 目的に応じた表現活動を取り入れ、活動の前に子ども同士が考えを交流する時間を持ち、その考えを深めたり広げたりする機会を確保します。また、定型文やヒントを提示するなど、手立てを工夫します。

【ご家庭では】

- 様々なジャンルの文章に触れる機会をもってほしいと思います。文章の内容を追うだけでなく、筆者はこの文章を通して読者に何を伝えたいのか、わかりやすく伝えるためにどんな工夫をしているのかを考えながら読むことは、読解力と語彙力を磨くことにつながります。
- わかりやすさだけを重視せず、時には、子どもが日頃耳にしないような語彙を、あえて大人が使うことが、知的好奇心をくすぐります。その好奇心に応じることが、豊かな語彙につながります。

3 数学



(1) 結 果

どの領域も、全国平均正答率よりも高い正答率でした。「数と式」「関数」「データの活用」では、20 ポイント以上上回っていました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「数と式」の領域の事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例を上げることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を 20%以上下回っていました。今後、様々なパターンの問題を解く際に、数学的な表現を用いて適切に表現することができるようになることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

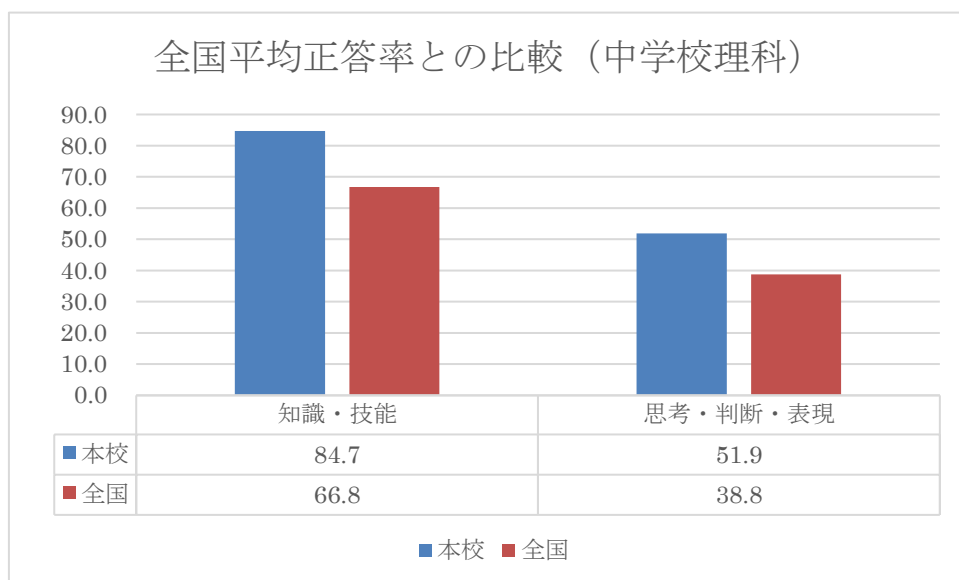
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、教科書の例題を説明させたり、式から生活場面を想起させたりしながら、自分の考えを表現する活動を充実させます。
- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い等の多様な活動を取り入れることで、自分の考えを式や言葉で、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ワーク、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのワークやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 数学を好きにするには、一人で解けたという喜びを実感する経験が有効です。そのためには、既習内容の確実な積み重ねが大事になります。授業後は必ず復習を行い、問題を繰り返し解いたり、計算力をつけたり、日々の努力を継続させてください。

4 理科



(1) 結果

「知識・技能」の項目では全国平均を 17.9 ポイント上回り、「思考・判断・表現」の項目では全国平均を 13.1 ポイント上回る結果となりました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「地球」を柱とする領域の地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる問題の正答率が 0%。また、同様の領域の大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる問題の正答率も 0%となっていました。問題文中の重要な指示を見落とさないよう、問題文中の条件を確かめる活動や説明する活動、書く活動を継続して取り入れること。また記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。